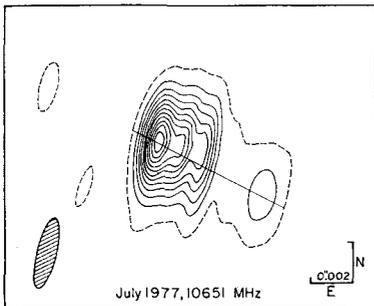
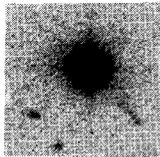


銀河めぐり [VIII]

準星 3C 273

楕円・渦巻・双子・帽子等色々な形で楽しませてくれる銀河だが、これは準星という名が示すように星のようには見ええない。しかし露出を長くしていくと、かすかに南西に棒状のものが見えてくる。見かけはこの程度で素気ないが、この天体はいろいろな話題を我々に提供してくれている。

M とか NGC ナンバーはついていないが、ケンブリッジ3C カタログのなかでは最もなじみの深い天体である。月の掩蔽を利用して電波源の位置と、A・B 2成分がわかった。これは恒星状天体の中心と棒に対応する。トゲは大きな偏光(波)をしており、本体から約10万光年の距離に吹き出されたジェットと考えられる。この位置をもとにシュミットが200インチ鏡で準星の赤方偏移 z を初めて求めたことはあまりにも有名である。途方もなく大きな z ということに驚いたのだが、今では $z=0.158$ は準星では最小に属する。



VLBI で本体に数光年程度の構造があり、これが光速度の5倍程度で膨張していることが発見された。位相も利用して作った最近のマップを見ると、スペクトルの平らな成分と急な成分に分けられる。ここでも本体とジェットという構造をしている。このジェットが高速で動いて超光速膨張に見えるといわれる。この先の方に前述の棒状ジェットがあり、さらに600万光年先にも別のジェットの名残りらしきものがある。エネルギー源の問題をはじめ、我々の常識をあざ笑うかのように変わった姿を見せてくれる天体である。(井上 允)



◇ 8月の天文暦 ◇

| 日時 | 記 | 事 |
|-------|----|-------------|
| 1 11 | 水星 | 西方最大離角 |
| 3 21 | 下弦 | |
| 7 18 | 立秋 | (太陽黄経 135°) |
| 11 4 | 朔 | |
| 16 3 | 月 | 最遠 |
| 19 7 | 上弦 | |
| 23 9 | 処暑 | (太陽黄経 150°) |
| 25 4 | 金星 | 西方最大離角 |
| 26 13 | 望 | |
| 26 21 | 水星 | 外合 |
| 28 4 | 月 | 最近 |

◇ 8月の日月惑星運行図 ◇

